

Shinsei
2022 Vol.41

2022年2月7日 発行

医療法人 厚生会 道ノ尾病院「新星」Shinsei 編集部
〒852-8055 長崎市虹が丘町1番1号
TEL 095-856-1111 FAX 095-856-4755

新星

題字：松本 寿美子



CONTENTS

- 2 新年のご挨拶
- 3 精神科研修医の紹介～コラム「虹」
- 4 減酒専門外来開設
- 5 「DPAT」と「CVPPP」の研修に参加して
- 6 第1回ツナグミライカップ フットサル大会開催
- 7 連載 みちのお職人①
- 8 デイ・ケアにハチの巣

基本理念 患者第一主義

基本方針

- 挨拶と笑顔をもって皆様（患者・家族）に接します
- 疾病や治療に対して十分な説明と同意に基づき、患者本位の医療を提供します
- 患者の権利を認識し、尊重します
- 地域における責務を認識し、開かれた病院を目指します
- 職員研修を行い、常に研鑽に努めます
- 健全な病院経営に努めます
- 患者の社会復帰に努めます

新年のご挨拶

理事長 松本 純隆



新しい年を迎えるにあたって皆様にご挨拶させていただきます。

旧年中は皆様方に格別のご支援をいただきありがとうございます。これまで以上に地域のために貢献できる道ノ尾病院、虹が丘病院でありたいと考えております。

令和3年を振り返りますと、昨年に続き新型コロナウイルス感染症に振り回された1年であったと思います。秋までに第5波の感染拡大がみられ、長崎県においても感染者の報告が毎日続きました。

道ノ尾病院では新型コロナウイルス感染症の対応として、ワクチン接種に積極的に取り組んで参りました。医療従事者の接種に際しましては基本型施設として-80度のディープフリーザーの供給を受け、そこから多くの医療施設にファイザーワクチンの供給も行いました。夏から秋にかけては地域住民の方への個別接種も行い、合計で約12,000回の接種を行うことが出来ました。多くの方々に道ノ尾病院においていただき、精神科病院が安心・安全であることをお伝えできたとも考えております。一方で職員も初めての事で来られた皆様方にご不便をおかけしたこともあったかと思っておりますのでお詫び申し上げます。後日地域の皆様方から感謝のお言葉をいただきました事は大変嬉しく思いますし、尽力いただいた職員を誇りに思います。

令和3年12月からはオミクロン株の感染がみられることもあり、令和4年1月から3回目の接種が始まりました。感染対策を充分に取りながら取り組んでおります。

一方でコロナ感染が続いていることから、入院患者様にもLAMP検査やPCR検査をお願いし、入院中の面会や外出・外泊を禁止するなど、多くのご不便をおかけしております。精神科病院であることから、感染が起こった際の対応に限界があることからご理解をいただきたいと思っております。

また、虹が丘病院においては9月より眼科診療を開始し、少しずつですがご利用いただいております。併せて医薬分業の指導もあり、調剤薬局を虹が丘病院眼科棟の一部に設置し、(株)アインファーマシーズ様に業務を行っていただいております。道ノ尾病院、虹が丘病院ともに院外調剤となり、待ち時間が長いとのご指摘も受けておりますが少しでも改善できるように鋭意努力しているところです。

皆様方にとってもすばらしい1年であることを心から願っております。医療法人厚生会道ノ尾病院・虹が丘病院さらにみちのおメンタルクリニックや各事業所をよろしくお願い申し上げます。



院長 松本 一隆

昨年は、一昨年より続く新型コロナの影響を受けた1年になりました。

この2年近くの間、感染は拡大しては落ち着くということを繰り返し、その中でウィルスは変異をし、結局未だ終息に至っていません。私たち国民は、コロナ前とは全く違った生活様式を余儀なくさせられ、非常に窮屈な毎日を送ることになり、このことは、外来受診時や入院前の感染対策、コロナ検査など煩雑になり、また入院中の患者様も外出や外泊、家族との面会といった患者様の楽しみをも制限せざるをえないこととなりました。ある程度やむを得ないこととはいえ、患者様、ご家族

様には多くの精神的苦痛を伴うこととなり、誠に申し訳なく思います。

一方で、コロナ感染拡大防止対策としてのワクチン接種では、当院では、感染制御が専門の安岡彰医師を中心に、多くの職員に御協力頂き、当院入院、外来患者様に加えて、患者様御家族、地域の医療従事者、住民の方に2回の接種を行い、多少なりとも社会貢献できたものと思います。今年は3回目のワクチン接種を控えており、引き続き、当院が可能な範囲で貢献ができればと思います。昨年末より、新しい株が拡がりつつあり、今年もまだ続きそうですが、コロナが一刻も早く終息に向かうことを祈りつつ、引き続き職員一同、社会貢献していけるよう努力していきたいと思っております。何卒御指導のほど宜しくお願い申し上げます。

精神科医研修を はじめて

精神科医 志方 有莉

2021年10月より当院で研修をしております、精神科医師の志方 有莉と申します。

2018年佐賀大学卒で、2020年に長崎大学病院 精神神経科学教室に入局しました。現在は、精神科専門医および精神保健指定医の取得を目指し、日々勉強に励んでいます。長崎大学病院精神科神経科で1年半の勤務を経て、この度当院へ赴任させていただきました。

道ノ尾病院は、規模が大きく、多職種の連携も盛んであるため、リハビリテーションプログラムや、心理相談、家族教室、就労支援など、幅広い支援ができることが魅力であると思います。実際にいくつかのプログラムに参加する機会もいただき、改めて精神医療の領域の広さと奥深さを感じています。

現在は上級医のご指導のもと、入院患者さんの精神科的治療を中心に携わっています。新米医師ゆえ経験は浅いですが、その分なるべく患者さん一人一人へ寄り添い、心の回復のために精一杯お手伝いさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



新星コラム



『季節外れの雷雨が続き、今日もこのまま不安定か…、とふと雨上がりの空を見上げると、デイケア棟の向こう側に虹がかかっていた。』

この光景を誰かに伝えたい。病棟の窓からも見える。

一人、また一人…、「わぁ〜っ」と声を上げる人、スマホを持ち出し写真を撮る人…、

ああ、皆さんこんなに嬉しいんだ。いろんなことを我慢してきたけど、これからはきっといいことありそう。虹が丘の虹に、笑顔の輪が広がる朝だった。』

減酒専門外来 開設のお知らせ



当院では、2021年12月より、新しく減酒専門外来を開設しました。アルコールに問題を感じて、お酒を減らしたり、お酒との付き合いを変えてみたい方が対象です。

従来のアルコール治療はお酒をやめることに重点が置かれてきました。この外来では、「お酒の量を減らす」ことや「問題のない飲み方をする」ことも含めた、受診した方それぞれの多様なゴール設定に合わせたお酒との付き合いを専門医師がサポートさせていただきます。最近では、お酒の量を減らすことができる内服薬（薬の効果や副作用には個人差があります）もあります。なお、最良の減酒は、断酒です。

専門外来の適応になる方

「お酒の習慣が気になっている方」

「お酒の量を減らしたい方」

「お酒に関する健康チェックをしたい方」

ご自分にお酒の問題がない方も、周囲に問題がある方がいらっしゃったら、良かったらこの外来をお勧めして下さい。また、ご本人が来れないときは、家族相談も可能です。

アルコール依存症の診断がつく方も、この外来を受診することが可能です。ただし、アルコールの問題が重篤でお酒を断つことが望ましいと判断された方には、断酒や入院治療をお勧めすることもあります。

精神科医 福嶋 翔

※注意点

当院への入院治療を希望する方には、従来の一般新患外来（断酒中心）の受診で対応させていただきます。

すでに当院に通院されている方や入院されている方はこの外来を受診できません。現在の担当医の外来診察で対応させていただきます。

また、職域での減酒指導のご希望があれば、ご相談ください。



包括的暴力防止プログラム (CVPPP) の研修に参加して

C-6 看護師 岩下 秀樹

CVPPPとは、包括的暴力防止プログラムの事です。興奮している当事者を素早く拘束的に鎮静化することが目的ではありません。当事者も介入するスタッフも身体的リスクを少なくし対応できることが望ましいとされ、それがCVPPPの最大の目的でもあります。

普段からの意識的な関わりを持つことで、良好な人間関係の構築にも繋がりますし、結果そのことで興奮した当事者に対し、有効なディ・エスカレーション（交渉）技術が生かされると思います。今後も自己研鑽の精神を忘れず、CVPPPの基本理念や対応策などを多くの方に伝達していけたらと考えています。

C-3 看護師 小森 美佐子

CVPPPは単に患者様を安全に抑える方法だと思っていました。しかし基本はディエスカレーションであり、言語的・非言語的な介入により患者様の興奮や怒りを和らげる援助をすることで、暴力をしなくてもいいような状況にすることが大事であることを学びました。攻撃的であったり興奮している患者様に対してはそれを力で抑えようと考えてしまうと思います。しかしそうではなく、患者様の立場になって考え、環境を整えたり患者様を労わる気持ちや気配りをする事で患者様を尊厳するケアができることを学びました。このような機会をいただきありがとうございました。

A-1 看護師 久保 乃也

今回の研修で得た学びを自己研鑽の中で深めていき、より多くのスタッフへの伝達、研修開催等で当院へ還元していきたいと思えます。また患者様がより豊かにより安心して生活できる環境を作るよう活かしていきたいと思えます。貴重な研修に参加させていただき、ありがとうございました。



災害派遣精神医療チーム (DPAT) の研修を終えて

C-4 看護師 福 かおる

今回、私が参加させていただいたのは「EMIS」という情報システムを使い、発生直後から急性期の情報収集や情報処理を行う実習でした。操作やデータの情報がリアルタイムに変化する中、拠点立ち上げから、各々に役割分担をした上で、的確な判断・任務遂行を行うことの難しさや責任の重さを学ぶことができました。今後の自分の成長に役立つ体験にしたいと思います。貴重な勉強の機会を与えていただき、ありがとうございました。

C-3 看護師 永田 洸太

今回の長崎県DPAT研修会を受け災害支援に対するDPAT組織の役割や被災病院がこういった風に動く必要がありそれがこういった意味を成すのか知ることができた。

支援班や現場の医療関係スタッフなど被災時はチームで動くことが多く連携も大切となるがその現場一つ一つで求められるものも変わってくるため個人の判断能力も大切となる。その為日ごろからの職務を単に行うのではなく一つ一つの場面や状況に合わせて行動を行えるようにしていきたいと思える良い機会となりました。

C-3 看護師 吉崎 洋平

今回、長崎県災害派遣医療チーム養成研修に参加させていただきました。

発災初期から流動的に変化する被災地のニーズに応えることが必要であり、どんな活動でも被災地支援の一端を担うというのを学びました。

支援の幅を広げるためにも日頃より自身のスキルアップを行っていき、熊本大地震の際に貢献されました、松本一隆院長・中村師長をはじめDPATの先輩方に続くことができる様、日々精進して参りたいと思えます。

A-1 看護師 久保 乃也

今回、長崎県災害派遣医療チーム養成研修に参加させていただきました。

研修ではEMISという情報システムを使用し、各個人のスマートフォン等で発災初期の各病院の被災状況や物資不足などの情報を入力する演習を行いました。被災地では流動的に変化する状況や変化に対応することが必要であり、情報収集の大切さを学ぶことができました。また、発災から拠点立ち上げ・被災地への派遣までの一連の流れも学ぶことができました。今回の研修での学びを、自己の成長へとつなげていきたいと思えます。貴重な機会を与えていただきありがとうございました。



第一回 ツナグミライカップ フットサル大会開催

第一回ツナグミライカップ フットサル大会へスタッフとして参加しました。

12歳以下・9歳以下のリーグ戦で、基本は少年少女混合チームですが、1チームのみ女子オンリーの12歳以下チームがあり、準優勝というすばらしい成績でした。

当日は午前から曇り空で、天気予報では夜間から雨予報だったのですが、残念なことに午後から厳しい雨が。それでも各チーム、アップ中は寒そうでしたが試合となれば、はつらつハッスルプレー。女子のエースストライカーが決めれば、まだまだ小さい少年もゴールを決める、ゴールを守るキーパーもナイスセーブと熱い戦いでした。得点係は一番寒そうにしていました。

①運営スタッフとして協力させていただきました。小学校低学年～高学年まで、幅広い年代が参加できる大会だったので、まさに子どもたちの未来へ繋がるような大会だったと感じています。悪天候の中、雨にも負けない子どもたちの元気さやボールを一生懸命に追いかける姿がとても印象的でした。

〇T山井

②ツナグミライカップに救護班として参加させていただきました。

会場にいるみんなが笑顔いっぱいのフットサル大会だったと思います。フットサルに詳しくない私でも子供たちの一生懸命さや楽しそうな姿を見ると熱中して観戦し、あっという間に時間が過ぎていました。救護班としては大きな怪我もなく大会を終了できたを何よりうれしく思います。次回もぜひ参加したい楽しい大会でした。

看護師 吉崎

保護者より

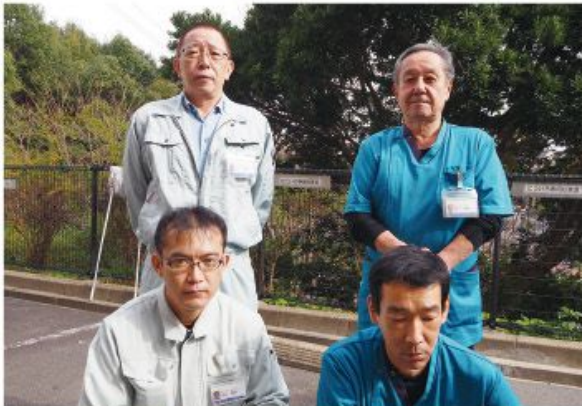
2021年11月21日(日) 医療法人厚生会 道ノ尾病院、社会福祉法人 平成会の主催で開催された「ツナグミライカップ2021」に保護者として参加させていただきました。場所はアローズ長崎の全面芝のグラウンドでとてもきれいな所でした。あいにく午後から雨が降り出しましたが、子供たちは元気に走ってボールを追っかけていました。

運営に参加された当院のスタッフもスムーズに進行できるよう頑張っていました。

たくさんのチームが参加され、とても良い大会だったので子供たちのためにも続けていってほしいと感じました。

リネンセンター

毎日、病院内をキレイに清掃してくれるリネンセンター。 広い敷地内を少ないスタッフで手際よく丁寧に作業しているところをあちらこちらで見かけます。いつも清潔な雰囲気してくれるスタッフに、インタビューをしました。



Q1 1日のスケジュールは？

毎日朝7時前から作業を始めています。まず、職員の通用口の掃除からはじまり、出入りが多い正面玄関、受付、待合室。そして、トイレや廊下、階段などすぐに汚れてしまうのでモップがけや拭き掃除をします。定期的に渡り廊下などワックスがけも行っております。

Q2 毎日心がけていることは何ですか？

利用者の皆様が気持ちよく利用できるよう、廊下が汚れてないかゴミは落ちてないか、トイレの便器はキレイか、毎日、常に心がけています。

Q3 大変だなあと思うことは？

仕事量が多いので大変ですが、リネンスタッフみんなで協力しあって頑張っています。皆様が気持ちよく利用されているのを見ると充実感があります。

Q4 作業などして良かったと思うことは？

利用者の皆様に「いつもキレイにしてくれてありがとう」と言ってもらえるとやりがいがあります。

Q5 コロナ過で苦労したことはありますか？

常に感染予防の為、うがい手洗いマスクの着用はもちろん手袋の着用も心がけています。また、ソファ等は毎日皆様が座るところなので拭き掃除と欠かさず消毒もしています。

Q6 体調管理に気をつけていることは？

腰痛は職業病のようなものです。早寝早起きをし、健康管理には気をつけています。

Q7 皆さんに心がけてほしいことはありますか？

便器のフタは、使用后閉めてもらいたいです。便器保温の低下やホコリが付きやすいので、健康面でも大切なんです。





ハチの巣

デイケア 内田

ミツバチがプレハブの床下に入りしているとわかった時から気になっていました。隙間からのぞいたりもしましたが、暗くて見えなかったので、天気の良い時にどれくらい出入りしているのか時々見に行っていました。

プレハブが取り壊されることが決まってから、どうにか蜂を保護できないかと思い、ネットで検索し調べました。その結果、意外と日本ミツバチはおとなしくてあまり刺さないということを知り大急ぎで準備をしました。

時間はかかりましたが、巣箱を作り、何とかミツバチを巣箱に移動することができました。が、巣箱を移動して様子を見ていたら、数日後には、ミツバチの姿が見えず空になっていました。巣の中に蜜が詰まってる場所を探し、巣を絞り蜂蜜を採取しました。初めて、日本ミツバチの蜂蜜を食べました。香りが強く、味も濃厚で感動しました。今回は残念な結果になりましたが、いつか蜂を飼って、また蜂蜜をとってみたい！

この経験を活かされたいと思いました。



©2018 VVN

道ノ尾病院はV・ファーレン長崎を応援しています



医療法人厚生会

- 道ノ尾病院 ○虹が丘病院
- みちのおメンタルクリニック
- 宿泊型自立訓練事業所 ふれあい
- 就労継続支援B型・就労移行 ワークステーションかいこう
- 訪問看護ステーション すみ香
- ヘルパーステーション にじいろ
- 相談支援事業所 にじいろ ○居宅支援事業所 にじいろ
- れいんぼうハウス滑石 ○住宅型有料老人ホーム ほの香

社会福祉法人新生会

- 特別養護老人ホーム 望星荘
- 障害者支援施設 虹が丘学園

【医療法人厚生会 道ノ尾病院ホームページ】

<https://www.michinoo.or.jp>

道ノ尾病院

検索



モバイルの方



スマートフォンの方

パソコン・スマートフォン向け

道ノ尾病院 新着情報通知のお知らせ

道ノ尾病院HP上に出るポップアップを通知許可していただくと以降、新着更新情報をプッシュ通知で受け取ることが出来ます！

パソコンやアンドロイド端末はアプリ不要で直接プッシュ通知を受け取ることが可能です。

※iOS端末(iPhone・iPad)は「みんなのお知らせ」アプリをインストールし、お知らせ通知を許可するだけで以降、直接プッシュ通知を受け取ることが可能です。



通知許可ボタン表示